

Yearly Digest

2016/4 - 2017/3
公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 平成28年度の主な事業活動

スポーツチャレンジ助成事業

スポーツを通じて夢・目標にチャレンジするアスリートや指導者、研究者等の活動を助成する本事業では、平成28年度（第10期）対象者として33名に助成。期間中には目標管理（PDCA）を基軸とする独自のサポートプログラム（四半期報告・中間報告会・成果報告会・異分野交流など）により、競技成績の向上や研究の進展を支援しました。平成29年度（第11期）対象者は、募集・審査を経て28件（総額2,598万円）を決定しました。また、当財団の助成対象者（OB・OG含む）は、リオ2016オリンピック・パラリンピック競技大会に選手・審判・指導者合わせて12名が出場し、大いに活躍してくれました。



第10回YMFSスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングを開催。（3月／都内）第11期助成金贈呈式、スポーツ討論会、第10期生成果報告会・修了式、講演会を開催しました。（ウェブサイトにレポートを掲載）



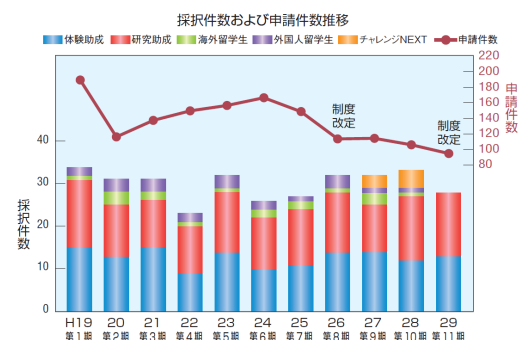
リオ2016オリンピック・パラリンピックには選手、審判、指導者合わせて12名が出場し、大いに活躍してくれました。（写真はパラリンピック出場選手8名）



独自のサポートプログラムで助成対象者を支援。中間報告会では、チャレンジャー相互の積極的な質疑に加え、審査委員からの激励やアドバイスが贈られました。



スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングでは「心の高め方」をテーマにスポーツ討論会を開催。アスリートや研究者がグループに分かれてディスカッション。



スポーツ振興支援事業

ジュニアヨットスクール葉山

心身ともに健全な子どもたちの育成を目指し、小・中・高校生を対象に葉山マリーナ（神奈川県）を拠点として運営している本スクールは、平成28年度34名のスクール生でスタート。通年型のセーリング指導、強化練習に加え、水辺の安全講習会など、水辺体験を促進する総合的なプログラムを実施しました。また、本年度は国内レースにも積極的に参加し、「競う力」を養う活動も強化してきました。



保護者会や修了式の際には、保護者の皆さんが海上練習や模擬レースを参観。子どもたちの成長を確認しました。

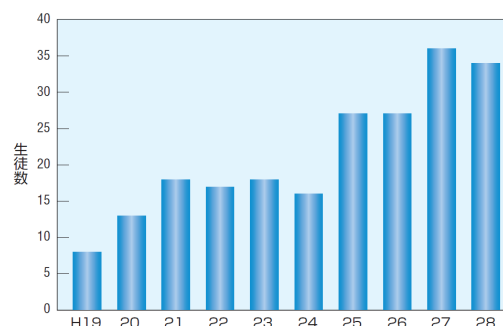


夏休みには「水辺の安全講習会」を開催。



海上練習の前には全員で安全確認。

生徒数推移



第25回セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

第25回大会は、静岡県三ヶ日青年の家を会場に、平成29年3月18～20日の日程で、NPO法人静岡県セーリング連盟との共催で開催し、過去最多となる全国36クラブ、162名の選手が出場しました（レーザー4.7級、レーザージャニアル級は、世界選手権国内選考会を兼ねたレース）。本大会は、ジュニア/ユースセーラーの育成を目指した「学べるレガッタ」を特徴として、国内トップレベルの講師陣等による技術指導に加え、今回は管理栄養士による食育などの勉強会も開催しました。



「第25回 YMFSS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しました。

●共催：NPO法人静岡県セーリング連盟 ●協賛：三井住友海上火災保険株式会社、ヤマハ株式会社、株式会社ワイズギア、株式会社船社、株式会社ヤマハトラベルサービス、株式会社ノースセイル・ジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン株式会社 ●後援：スポーツ庁、公益財団法人日本体育協会、静岡県、静岡県教育委員会、公益財団法人静岡県体育協会、浜松市、浜松市教育委員会、公益財団法人浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK静岡放送局浜松支局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、静岡FM放送、浜松FM放送、日本オブティミストディンギー協会、日本レーザークラス協会、日本FJ協会、日本420協会、ミニホッパー協会、一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟



全国36クラブから過去最多となる162名のジュニア/ユース選手たちが参加しました。

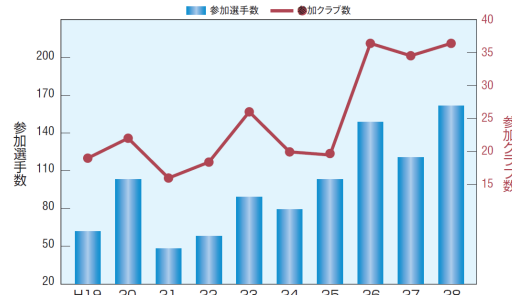


管理栄養士を招いて、食育などの講習会も開催。



好天の中、熱戦を繰り広げる選手たち。

選手・クラブ参加数推移



スポーツ教材の提供

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、全国の保育園・幼稚園、小・中学校、特別支援学校、スポーツ団体等を対象に実施している本事業には、862校・団体から申請があり、抽選会を経て135校・団体にスポーツ教材を提供しました。また、東日本大震災及び熊本地震の被災地小学校などへの支援として11校・団体へ提供。当財団近隣（静岡県西部地域の3市1町）の小学校等を対象とする指導サポート付きタグラグビー教材の提供「はじめてのタグラグビー教室」は、ヤマハ発動機（株）の協力のもと11校・団体で実施しました。これらを通じ全国で約13,000人の子どもたちや教師・指導者がこの事業に参加しました。

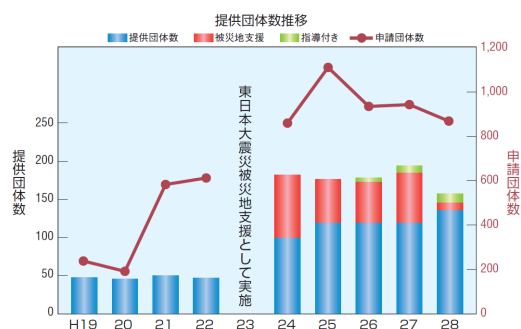
●共催：ヤマハ発動機株式会社（タグラグビー指導）



指導サポート付きタグラグビー教材の提供「はじめてのタグラグビー教室」は、ヤマハ発動機の協力のもと11校・団体で実施しました。



静岡県掛川市立曽我小学校での参加者の皆さん。



第28回全国児童 水辺の風景画コンテスト

子どもたちが積極的に水辺に出かけることを啓発し、そこで発見・体験したことを描くことを通して、感性を育み、のびのびと成長するための一助となることを願い、全国の保育園・幼稚園、小学校、絵画教室等を対象に実施している本事業には、729団体から過去最多の10,321作品の応募がありました。作品は審査会を経て、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞各1名を含む入賞40作品（入選全体では602作品）を決定。大臣賞受賞者は在籍校の協力を得て表彰式を行うとともに、入賞作品は当財団のウェブサイトや「ジャパンインターナショナルポートショー2017」会場にて公開・展示しました。

●特別協賛：ヤマハ発動機株式会社 ●協賛：Love the Earth 実行委員会、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社船社、マルマン株式会社、株式会社ワイズギア
●後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、一般社団法人日本マリン事業協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、NPO法人ジャッパングেমフィッシュ協会、一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構



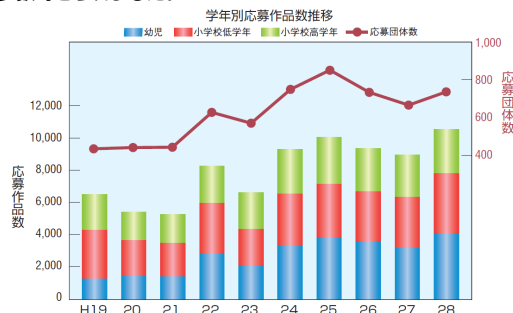
10,321点の応募作品の中から入賞40作品を決定。大臣賞は在籍校の協力を得て各学校で表彰式を開催しました。



自らの水辺体験を描いた作品が多数寄せられました。



10月25日都内日展会館で最終審査会を開催しました。



スポーツ文化・啓発事業

第9回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した「縁の下の力持ち」的な人物・団体を表彰する本事業は、第9回受賞者として功労賞に今村大成氏。奨励賞に野口智博氏を決定し、平成29年4月21日に都内会場にて表彰式を開催しました。また、前年度（第8回）受賞者（藤原進一郎氏、中島正太氏）の足跡や功績を、広く社会の皆様にご覧いただくため、当財団ウェブサイト「特集記事 BACK STORIES」を通じて情報発信を行っています。

●後援：公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

受賞者（敬称略）



〔功労賞〕 **今村 大成**（いまむら たいせい）

**日本若手卓球選手の武者修行を支え続ける
「デュッセルドルフの父」**

株式会社タマス 取締役/Tamasu Butterfly Europa GmbH 社長
推薦者：公益財団法人日本卓球協会 星野一朗専務理事



〔奨励賞〕 **野口 智博**（のぐち ともひろ）

**障害者スポーツ全体の課題に先鞭をつけた挑戦
～トップ選手の指導からパラアスリート強化の現場へ～**

日本大学文理学部 教授/木村敬一選手パーソナルコーチ
推薦者：公益財団法人日本障がい者スポーツ協会



第9回表彰式（平成29年4月21日／東京）を開催。



受賞者のチャレンジの足跡をウェブサイトで紹介。

調査研究

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題の解決に寄与することを目的とした本事業では、平成28年度は「障害者スポーツ」と「トップスポーツ」に関する調査研究テーマに取り組み、調査結果を報告書（2種類）として発行するとともに、当財団ウェブサイトにて全文公開しました。また、平成27年度調査結果の社会活用の促進を目的に公開シンポジウム「障害者スポーツ選手発掘・育成システムのモデル構築に向けて」を都内で開催したほか、障害者スポーツの振興や課題に関わる現場の実情を把握すべく、各種イベントにも参加するなど今後の事業充実に向けた情報収集を行いました。

●シンポジウム後援：スポーツ庁、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会、公益財団法人日本体育協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人笹川スポーツ財団、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会



2つのテーマの調査研究結果は報告書として発行。（ウェブサイトにてレポートを掲載）

前年度の調査結果の社会活用の促進を目的に、シンポジウム「障害者スポーツ選手発掘・育成システムのモデル構築に向けて」を都内会場で開催。

掲載情報の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

www.ymfs.jp